

パフォーマンステスト「This is me! 自己紹介」(第8時)

測る力	話すこと [やり取り] : 好きなこと・得意なこと・宝物を伝え、質問に応じられるか (知識・技能 / 思考・判断・表現)
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で (待機イス1つ)。たからものカード (活動2) を持って来てよい。
ことばの条件	黒板の「4つの型」 (I'm from / I like / I'm good at / My treasure is) は掲示したままでよい。絵カード (提示用1部) はテスト席の机に置いておく——ことばが出ない子に2枚見せて選ばせるため。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか (これが崩壊しない鍵)

グループ	やること	用意する物
A (テスト中の班)	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	たからものカード
B	サイコロトーク・グループ戦 (小聲で)	活動シート1・サイコロ
C	たからものカード交流のつづき (班の中で小聲・立ち歩かない)	活動シート2
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く (書けたら席でBと同じことをする)	振り返りカード (学校のもの)

1班終わるごと (9~10分) に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる (テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ)。1班8~9人・約1分×35人で35~40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと (待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ)。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

- 1 **Hello! How are you?**
（あいさつ・緊張ほぐし。ここは評価に入れない）
- 2 **Nice. What do you like?**
（I like を引き出す。1つ言えたらOK）
- 3 **Oh, good. What are you good at?**
（出てこなければ Can you swim? に切り替えて、そこから good at へ戻す）
- 4 **And... what's your treasure? Show me, please.**
（単元を中心。カードを見せながらでよい）
- 5 **（ここで3秒、だまって待つ）**
（質問が返ってきたら思判表a。出てこなければ次へ）
- 6 **Wow, nice! Thank you. See you!**
（お別れまでがテスト）

評価しないこと 宝物の値段・新しさ・めずらしさは一切評価しない（「毎日つかっているふてばこ」で満点になる）。I'm good at swim. のような形のまちがいも減点しない。声の大きさは評価しない。見るのは「カードを見せる・指さす」など伝えようとする工夫。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	I like / I'm good at / My treasure is を使い分け、宝物という新しい話題についても自分のことを3文以上で伝えられる	支えの質問を受けながら、自分のことを2文程度で伝えられる	絵カードを指して単語で伝えられる→黒板の型と一緒に指さし、My treasure is を1文だけ一緒に言う
思考・判断・表現	質問の内容に合う答えを選び、カードを見せる・大事な語をくり返すなど伝わる工夫をしたうえで、相手の言葉がとぎれたときには What's your treasure? / Why? をその場で作って自分から問い返し、やり取りを終わらせずに続けられる	質問に合った答えを返せる	質問と答えがずれる→質問をゆっくり言い直し、絵カード2択（Dog? Bicycle?）で選ばせる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	たからものカードや振り返りに自分のめあてが具体的に書かれ、活動でも話がとぎれたところで Why? や Me, too! を自分から足し、やり取りを続けようとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「だれのたからものが心にのこった？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【**知技・a**】外国語「This is me!」の単元では、I like や I'm good at、My treasure is の表現を使い分け、自分のことを英語で三文以上に伝えることができました。

【**知技・b**】黒板に掲示した四つの型と絵カードを手がかりにして、サイコロトークでは好きなことや得意なこと、たからものを英語の一文で言えるようになりました。

【**思判表・a**】たからもののカードの交流では、相手に伝わるようにカードを見せたり大事な言葉をくり返したりして話し、返ってきた質問にも自分の言葉で答えることができました。

【**思判表・b**】新しい仲間になんて聞いてほしいかを考えて、伝える内容をえらぶことができました。サイコロトークでは同じお題が出るたびに前とはちがう自分のことを選び、五つの型を最後まで使いきっています。

【**態度**】サイコロトークでは、出た目の型を進んで使って何度も話し、友だちの話にも Me, too! と反応するなど、意欲的にやり取りに取り組みました。

【**態度**】友だちのたからものの話を興味をもって聞き、Why? と質問を返して話を広げようとするなど、英語で伝え合う楽しさを味わっています。

【**はげまし型**】たからもののカードに絵と文をていねいにまとめ、それを見せながらであれば My treasure is を最後まで伝えられます。黒板の四つの型を手がかりにすると、もう一文を加えることもできてきました。

【**接続型**】自分のことを英語のまとまりのある文にして伝える経験を積みました。中学校の最初に行う自己紹介の学習に、そのままつながる力が育っています。

【**発展・★3**】たからものを伝え合う場面では、相手のことばが止まっても待つだけにせず、Why? をその場で自分から作ってたずね、話が終わらないようにしていました。

書き方の型 ①活動名（具体）／②できるようになったこと（評価規準のことば）／③子どもの姿（1つだけ）の3つで組み立てる。並べる順は文例ごとに変えてある——同じ子が1年に何度も同じ文型の所見を受け取らないようにするため。宝物が「何であったか」には所見で触れない（持ち物や家庭の状況への言及になり得るため。伝え方の成長だけを書く）。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。